

平成30年度 事業報告書

ハーバー大慈

1. <施設理念>

児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、利用者の人権を尊重し、地域から信頼される施設を目指す

2. <基本方針>

- ①利用者の利益を最善の目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する
- ②母と子の権利擁護のために、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する

3. <目標>

- ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする

より質の高い支援が行える様、支援会議とは別に新たな会議を設けた。結果、入所者一人ひとりに対する各職員の思いを話せる場が増え、支援内容に反映する事が出来た。また、全職員がより共通意識を持ち、支援に携われる様になった。

- ②職員の資質の向上

今年度も対人スキルの向上を目指し、講師に来て頂き、施設内研修を開催した。また、各職員の経験年数も増え、組織としての力は向上してきたが、柔軟性を持ち、業務に携われる様、努めた。

- ③地域のニーズに沿ったサービス、子育て支援を行う

こども園の増設、施設や学童保育の行事の兼ね合いから、リフレッシュ保育事業の利用者数は減少したが、日・祝日の仕事や家庭の事情等、ニーズとして必要とされている為、引き続き広報活動等で周知を図り、地域の子育て支援に貢献していきたい。

<リフレッシュ保育事業>

平成30年度年間延べ392人（昨年度年間延べ622人）→前年度より230名減少した。日、祝日の利用者も平日（月～土）の利用者も減っている。

平成30年度 月別利用者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| H30 | 33 | 33 | 24 | 43 | 32 | 24 | 32 | 30 | 62 | 23 | 20 | 36 |
| H29 | 55 | 66 | 36 | 61 | 60 | 50 | 53 | 42 | 79 | 39 | 42 | 39 |

4. <健康診断>

| 種類 | 職員 | 母親 | 児童 |
|-----------|-----|-----|-----|
| 一般健康診断 | 年2回 | 年2回 | 年2回 |
| 検便（O-157） | 月1回 | — | — |

5. <広報>

毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。

6. 《入居者の異動利用状況》

| 月別 区分 | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 | |
|----------|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|
| 初日在籍数 | | 18 | 19 | 19 | 19 | 19 | 20 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 222 | |
| | | 41 | 43 | 43 | 43 | 43 | 45 | 41 | 41 | 41 | 41 | 41 | 41 | 504 | |
| 入所 | 夫の酒乱 暴行 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住宅 喪失 | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| | | | | | | 2 | | | | | | | | | 2 |
| | その他 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | 2 |
| | | 2 | | | | | | | 2 | | | | | | |
| 退所 | 公営住宅 入居 | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | 2 | | | | | | | | 2 |
| | 民間住宅 入居 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 2 |
| | | | | | | | 2 | 2 | | | | | | | 4 |
| | 復縁 再婚 | | | | | | | | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | | | | | | | | |
| 短期保 護 | 母子 | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | | 1 | 6 | |
| | | 5 | 5 | 3 | | | | | | | | | 5 | 18 | |
| | 婦人 | | | | | | 1 | 2 | 1 | | 1 | 1 | | 6 | |

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、4世帯13名 婦人は3名だった。

7. 《保健衛生》

業者に依頼し、廊下清掃、各居室のエアコン清掃、排水管清掃（台所、浴室、洗濯機置場）、を行った。また、各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室・倉庫の害虫駆除を行った。

8. 《避難訓練》

- ①消防訓練→毎月1回行う。また、水消火器を用意し消火器使用の訓練も取り入れた。
- ②地震訓練→地震後の津波を想定し、大倉山公園まで避難の練習をした。
- ③不審者訓練→施設への不審者侵入を想定し、訓練を行った。

9. 《会議》

| 頻度 | 会議名 | | |
|-------|----------------------------------|-------------|--------|
| 月1回 | 職員会議 | 支援会議 | 短期計画会議 |
| | リフレ委員会 | リスクマネジメント会議 | リーダー会議 |
| 年2回以上 | 三者連絡会議（施設・子ども福祉係・生活保護係・保健師の各担当者） | | |

10.《行事内容》

○年間行事（月極・・・母の会・避難訓練）

| 月 | 日 | 行事 | 月 | 日 | 行事 |
|---|------------|--------------------------------|----|-----|---------------------------------------|
| 4 | 9 | 昼食会 | 10 | 13 | 昼食会 |
| | 12 | 昼食会 | | 14 | OB会 |
| | 21 | 個別対応遊び（アイシングクッキー） | | 20 | 個別対応遊び （昼食作り・竹田城跡見学 男子対象） 昼食会 |
| 5 | 12 | 昼食会 | 11 | 10 | 昼食会 |
| | 13 | 母子協 母と子の運動会（湊小学校） ※雨天の為、中止 | | 11 | 個別対応遊び（スイートポテト作り） 児童エンジョイ（ひらかたパーク） |
| | 19 | 個別対応遊び（クレープ作り） | | 17 | 昼食会、施設内忘年会 |
| | 26 | 昼食会 | | 24 | スケート招待 |
| | | | | | |
| 6 | 5 | 害虫駆除 | 12 | 8 | 昼食会 |
| | 9 | 昼食会 | | | 個別対応遊び（チョコフォンデュ作り） |
| | 23 | 昼食会 | | 15 | 施設内クリスマス会 |
| | 30 | 個別対応遊び （お好み焼き、フルーチェ） | | 26 | 昼食会 |
| 7 | 6 | 七夕（鮭寿司・豚汁） | 1 | 14 | 母子協 新春母と子の集い |
| | 14 | 個別対応遊び（プリン作り） | | 18 | 個別対応遊び（夕食作り） |
| | 20 | 昼食会 | | 19 | 昼食会 |
| | 24 | 昼食会 | | 26 | 新年会 |
| | 25 | 昼食会 | | | |
| | 31～ 8/2 | 母子協 児童キャンプ（香住） | | | |
| 8 | 1 | 昼食会 | 2 | 1 | 節分（巻き寿司・豚汁） |
| | 3 | 昼食会 | | | 個別対応遊び（巻き寿司作り） |
| | 8 | 昼食会 | | 2 | たちばな会 料理教室 |
| | 8～9 | 個別対応遊び（小学生キャンプ） | | 9 | 昼食会 |
| | 16 | 昼食会 | | 15 | 高校生エンジョイ（USJ） |
| | 17 | 昼食会 | | 16 | 昼食会 |
| | 22 | 昼食会 | | | |
| | 23 | 地藏盆 ※警報の為、食事提供のみ | | | |
| | 24 | 昼食会、地藏盆 お菓子配布 料理教室 ※警報の為、中止 | | | |
| | 29 | 昼食会 | | | |
| | 30 | 昼食会 個別対応遊び（ベビーカステラ作り） | | | |
| 9 | 3 | 昼食会 | 3 | 1～3 | 母子協 児童スキーキャンプ（ハチ高原） |
| | 8 | 個別対応遊び（手巻き寿司） | | 4 | ひな祭り（鮭寿司・豚汁） |
| | 9 | 母子協 バス旅行 （東条湖おもちゃ王国） | | 16 | 個別対応遊び（お弁当作り・ピクニック） |
| | 15 | 昼食会 | | 20 | 昼食会 |
| | 29 | 焼肉パーティー | | 25 | 昼食会 |
| | | | 27 | 昼食会 | |

1 1. 《学習指導》

| 対象者 | 頻度 | 内容 |
|-----|--------------------------|--|
| 小学生 | 各児童週1～2回 | 国語・算数・英語（月に1度、4年生以上児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成し、学校の宿題後に行った（児童の能力に合わせて、必要な児童にはワークも購入した） |
| | 夏・冬の長期休みは、 毎日（月～金）1時間 | 国語・算数の宿題 終了している場合は他の科目の宿題 |
| 中学生 | 週1回 | 学校、塾のワークを一緒に行った |
| | テスト前は2日間連続 | テスト範囲 |
| | 夏・冬の長期休みは、 毎日（月～金）1時間 | 英語・数学の宿題 終了している場合は、他の科目の宿題 |
| 高校生 | 週1～2回（2時間） | 教科全般 神戸大学の学生に家庭教師として来てもらい、 個々の能力に沿って、1対1で学習指導をしてもらった |

1 2. 《施設整備等》・・・49万以下の主な工事等を記載

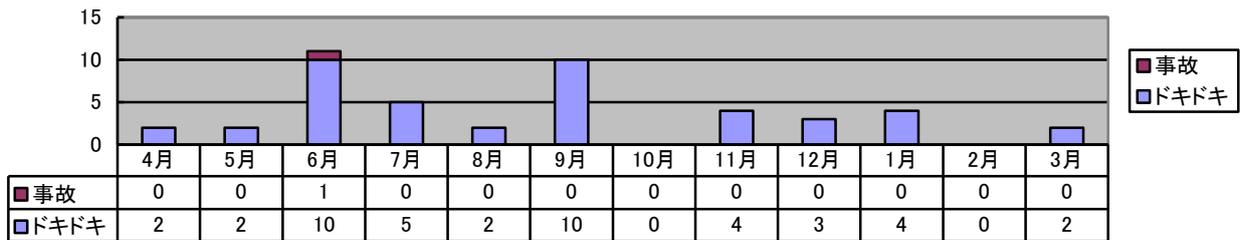
| 項目 | | |
|------------|-----------|---------|
| 居室のリフォーム工事 | ブロック塀補強工事 | 宿直室修繕工事 |

1 3. 《リスクマネジメント報告》

① 30年度ヒヤリハット報告件数・・・44件（学童保育は除く）

※29年度報告件数23件（学童保育は除く）

ヒヤリ報告(件数)

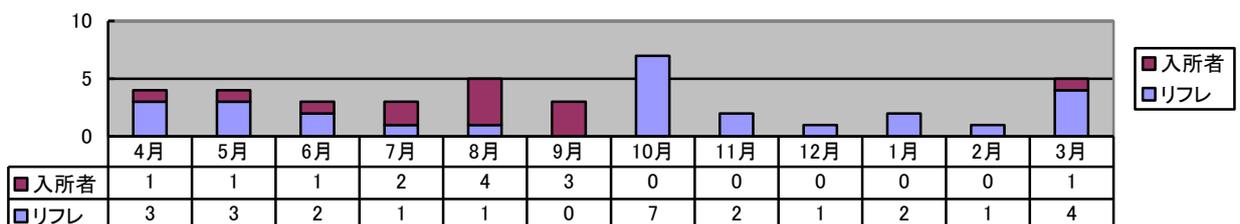


② 30年度ヒヤリハット以外のケガ報告件数（ケガノート） ※学童保育は除く

リフレ・・・27件 入所者・・・13件

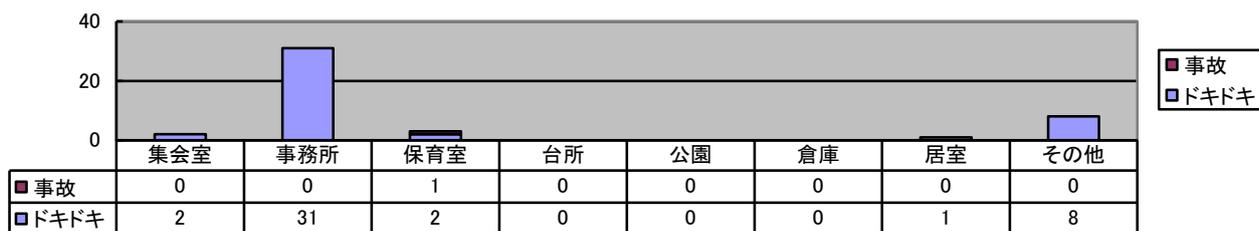
※29年度報告件数（学童保育は除く） リフレ・・・40件 入所者・・・14件

ケガ報告(件数)

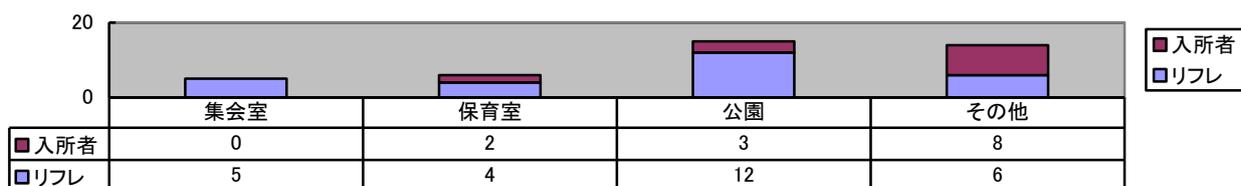


③発生場所別件数

ヒヤリ報告(場所)

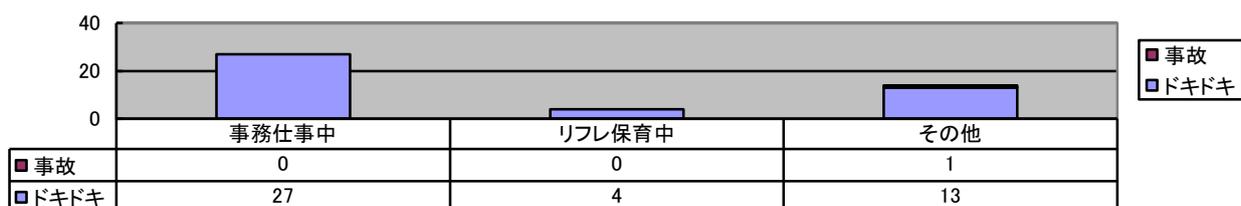


ケガ報告(場所)

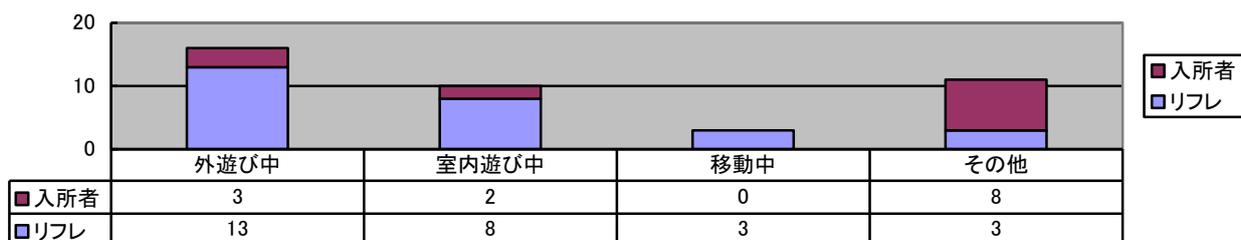


④発生状況別件数

ヒヤリ報告(状況)

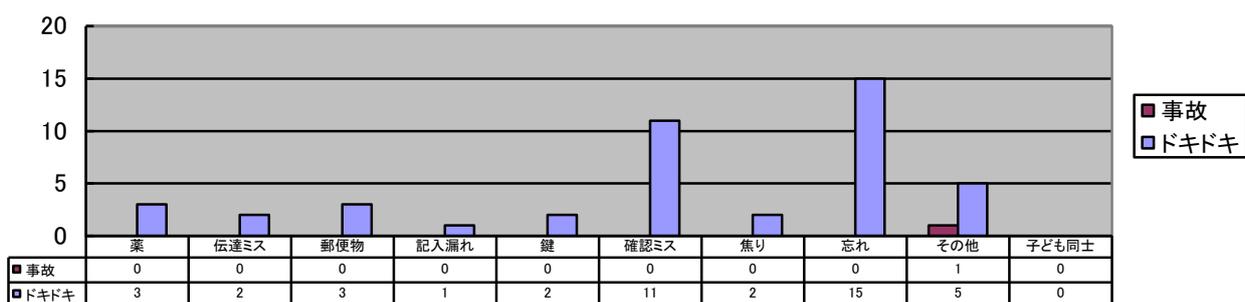


ケガ報告(状況)

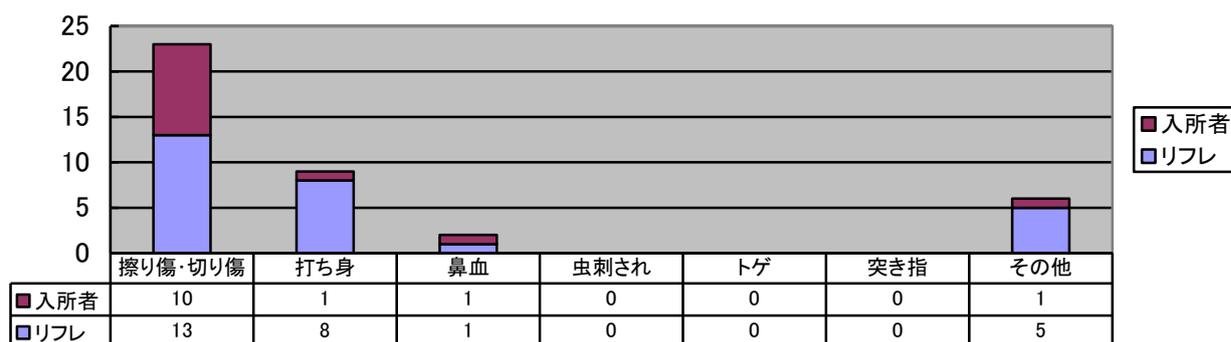


⑤発生内容別件数

ヒヤリ報告(内容)

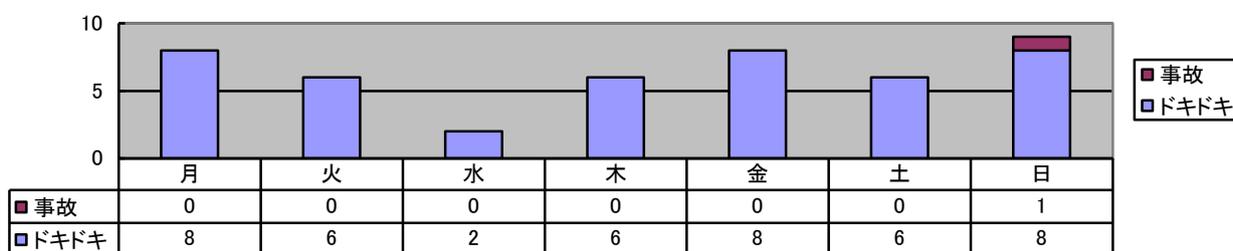


ケガ報告(内容)



⑥曜日別件数

ヒヤリ報告(曜日)



⑦時間帯別件数

ヒヤリ報告(時間)



⑧まとめ

ヒヤリ→ 確認ミスや忘れが多い。忘れから、引き継ぎミスに繋がる事もあり、職員同士がお互いに声を掛け合う事の意識を再確認する事があった。その為、情報共有への意識を対策として挙げ、確認ミス等、入所者やOB に対してのリスクの軽減に努めた。

事故→ リフレッシュ保育の食事中に、幼児が手についたご飯粒を鼻に入れて取れなくなり、神戸市医師会急病診療所に確認した上で、病院を受診する。結果としては、すでに鼻の中には見当たらず。初期対応は冷静に行えたが、配慮が必要な児童への対応については再度、職員間で話し合った。

ケガ報告→ 外遊び中に転んだり等、遊んでいる中で起こったものが多かった。また入所者は、個別対応遊びで食事作りをメインにした為、火傷等のケガがあった。ケガの把握や処置については適切に行う事が出来た。

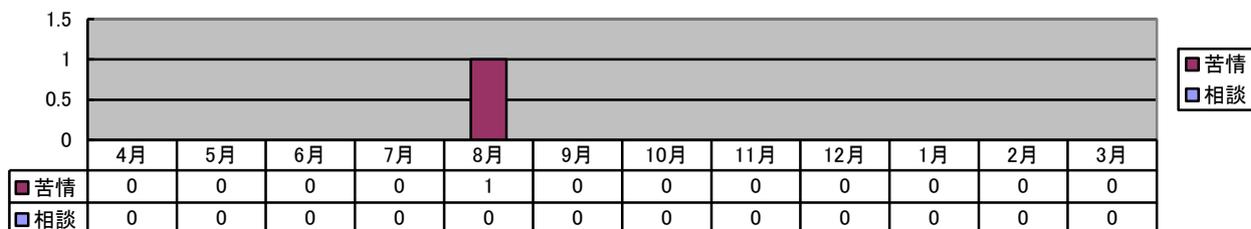
1 4. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

件数…苦情0件、相談1件

○報告件数

| 平成30年度 | | | | 平成29年度 | | | |
|----------|------|----|----|----------|------|----|----|
| 報告 件数 | 合計件数 | 苦情 | 相談 | 報告 件数 | 合計件数 | 苦情 | 相談 |
| | 1件 | 1件 | 0件 | | 1件 | 0件 | 1件 |

苦情・相談報告(件数)



苦情・相談報告(要望)



まとめ

今年度、苦情は1件あった。台風などの強風の際に、隣室のベランダから物が飛んできて、自室のベランダの窓に当たり、怖い思いをしたので隣人に伝えてほしい、という内容だった。この件以降、台風などの強風の際にはベランダの物を居室に入れる様、前日の声掛けを徹底した。

1 5. 《地域貢献》

- ①法人内認定こども園の時間外保育受け入れ（20時以降）
- ②リフレッシュ保育事業の保育時間延長（21時以降）
- ③アフターケアによる居室訪問、病院の付き添い、金銭管理、関係機関との連携等

法人内こども園の時間外保育受け入れは20時～21時半の間で定期的に利用があった。アフターケアは関係機関との調整、金銭管理、病院への付き添いを行った。退所後も安心して生活してもらえる様、ニーズに沿ったアフターケアを引き続き行っていきたい。

1 6. 《総括》

処遇面では、新たに会議を設ける事で支援内容の充実を図り、実践する事が出来た。引き続き取り組み、結果を焦らず、入所者に寄り添った支援を行える様にしていきたい。
30年度、定員に達したのは一月のみだった。母子生活支援施設のイメージや支援を必要としている母子世帯への認知度の低さ等が要因として考えられる。必要としている方々に認知してもらい、利用してもらえる様、来年度は対策を検討していきたい。